

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校	新宮市立熊野川中学校	中田 善夫
学校所在地		
〒647 - 1211 新宮市熊野川町日足646 Tel 0735 ( 44 ) 0133 fax 0735 ( 44 ) 0246		
担当者名	担当教科	
清嶺地 寿広	理科	
〔学校の概要〕		
<p>本校は、校区である旧熊野川町は、9割が山林で占められ、以前は農林業を営む家庭が多かった。現在ではその数も減り、全体に占める割合としては第3次産業が増えている。また、平成17年からの新宮市との合併や道路の整備、自家用車の普及により、生活はより新宮と密接したものになっている。</p> <p>平成23年9月の紀伊半島を襲った台風12号による水害で町全体が大きな被害を受けたが、米作り、イチゴの栽培も再開され、温泉施設等も復旧し、元の生活に戻ってきている。保護者、地域住民の方々は、学校教育に期待するところが大きく、学校教育活動にも協力的である。また、遠距離通学については、定期バスとスクールバス等の運行によりその解決が図られている。しかし、時刻表の改正で、ちょうどよい帰宅便がなくなるなど、困っている。(小口方面)大変広い校区を持ちしかも山や川が多いため、災害時等の道路の安全確保は本校の運営にも大きな影響がある。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等(延人数)	主な活動場所
学年1・2・3年生 22名	職員 10名	熊野本宮館・発心門王子跡～熊野本宮大社
実践研究テーマ		
ふるさと学習を通して、地域に貢献できる生徒を育てる。		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	郷土について学ぶ(世界遺産より)	
〔キーワード〕世界遺産学習・ふるさと学習		
〔単元目標〕		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録された過程を学ぶ事で、郷土に対する理解を深める。</li> <li>・現地指導を通して、環境整備(道普請)や自然保護に対する取り組みを学習する。</li> <li>・現地指導を通して、地域の方の思いを、後世に伝える事ができる実践力を身につける。</li> </ul>		
〔学習に当たった全学習時間数(世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名/教材名)〕		
全体 6時間 ( 「 郷土について学ぶ(世界遺産より) 」 6時間 )		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊野古道館に訪問し、展覧されている資料などから郷土の特色について学んだ。</li> <li>・和歌山県世界遺産センターを訪問し、職員の方から世界遺産についての講座をして頂いた。</li> <li>・和歌山県世界遺産マスターの方とともに、現地学習を実施した。郷土に対する理解を深めた。</li> </ul>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	・事前学習（本校）	・世界遺産センターのHP上資料の読み合わせ	ワークシート
2	・世界遺産講座 （世界遺産センターにて）	・世界遺産センター内の展示物の学習 ・世界遺産登録までの経緯の学習 ・「紀伊山地の霊場と参詣道」の概要の学習	観察・ワークシート
3	・現地学習：熊野本宮館 （発心門王子跡～熊野本宮大社）	・参詣道の散策と現地学習 ・「道普請」について現地学習	観察
4	・振り返り（本校）	・感想文を書いて意見交換会の実施 ・学習発表会に向けての資料整理	感想文
5	・学習発表会にて	・地域の方に学習した内容を発表する	発表用資料
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>●成果</p> <p>・郷土についての愛着心を育む上で、校区内及び近隣地域で学習するにふさわしい内容を模索していた。この事業を通じて、郷土に根付いている文化や伝統を丁寧に学習させて頂きとても有り難く感じた。あらためてこの地域の良さを引き継いで伝え続ける必要性を感じた。</p> <p>●課題</p> <p>・毎年の学習内容とする為には、生徒自身が道普請をボランティアで実施するなど活動内容を充実させる必要性を感じた。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>・郷土の良さに直接触れる機会が少なく、生徒にとってはこの事業を通して体験できた事は郷土に対する新たな価値観を見いだす事ができたと思われる。事後学習では、体験した内容を的確にまとめる事ができ、事前保護や環境維持に対する学習を真剣に取り組んでいたように見られた。地域の方の思いを、後世に伝える事ができる実践力を身につける為に良い学習の機会になったと思われる。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>・継続して学習する内容としていきたい。熊野古道体験の場所を変えるだけでなく、学習内容を変更して3年間地域で系統だてた学習できる単元にしたいと思う。その為には地域の方への現地調査や生徒自身による道普請の実施等、職員で内容を精査するべきではという意見がでた。</p>			

## 様式 2

平成29年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書

学習記録・活動写真]

### ・世界遺産センターにて



・「紀伊山地の霊場と参詣道」の概要の学習



・世界遺産センター内の展示物の学習

### ・現地学習の様子



・発心門王子跡にて



・その時代の生活についての学習

### ・学習発表会にて



・地域の方へ学習内容を報告